

設楽の城砦めぐり

小代城編



小代城全景を望む

小代城は、鞍掛山西側と野々瀬川左岸の山腹にある小代集落の北側丘陵部に築かれた居館城である。鞍掛山南西の大代から塩津へ抜ける、古い中馬道の松山峠を看視する軍事的要塞といえる。

城址は、本曲輪を取り巻く带状の腰曲輪があるが、後世の開墾で改変されている。

城址の西一五〇メートルにある小山に本曲輪・帯曲輪・虎口跡があるため、この一帯が城址と考えられる。

城主は、「三河国二葉松」に松平宮内左衛門屋敷、「小代村由来」に奥平大形・奥平藤右衛門、「田口由緒書」に松平宮内・奥平久府尉久矩と諸説ある。

町指定無形民俗文化財の子供三番叟は、小代城主奥平久府の病氣平癒のため、村人が八幡宮へ奉納したのが始まりと伝えられる。

(愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊)